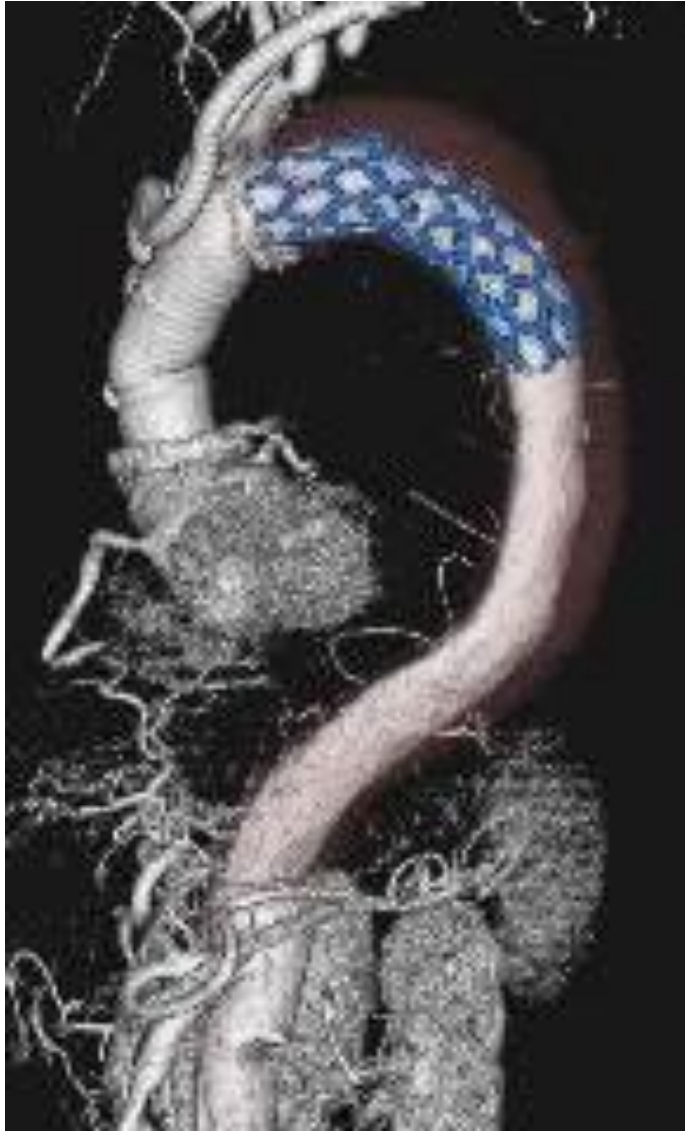


当院におけるオープンステントグラフト (J Graft Frozenix)の使用実績

静岡市立静岡病院 心臓血管外科

野村亮太



オープンステントグラフト (OSG)

弓部大動脈瘤 等に対する治療デバイス

ハイブリッド治療(開胸手術＋血管内治療)を
1回の開胸手術で可能に

より広範囲を治療可能

日本国内においては
J graft Frozenix が使用可能(2021年1月時点)

製造販売業社:	日本ライフライン株式会社
販売名:	J Graft Open ステントグラフト
医療機器認証番号:	22600BZX00033000

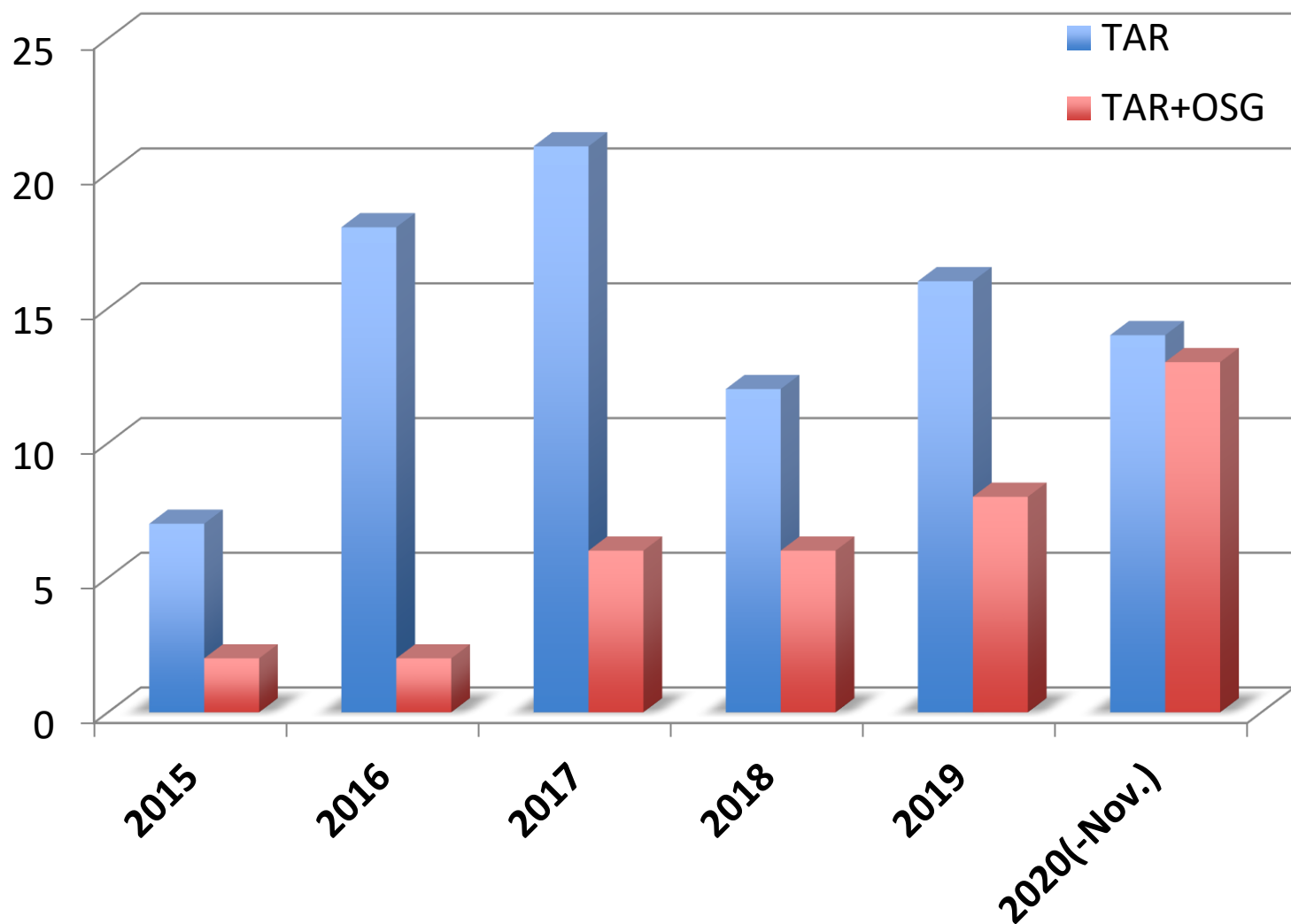
利点

- 手術リスクの軽減
- 手術時間の短縮化
- 低侵襲治療の実現

注意点

- 大動脈損傷
- 脊髄虚血リスク
- ステント関連合併症 特にSINE (Stent graft-induced new entry)

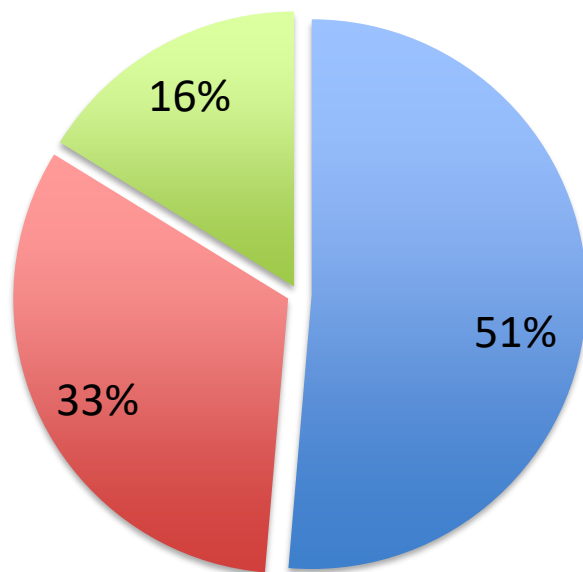
弓部大動脈全置換術 (TAR)



TARにおいてOSGはその実用性、安全性を背景に使用は増加傾向

Frozenix (2015-2020.11)

■ 真性瘤 ■ 慢性解離 ■ 急性解離

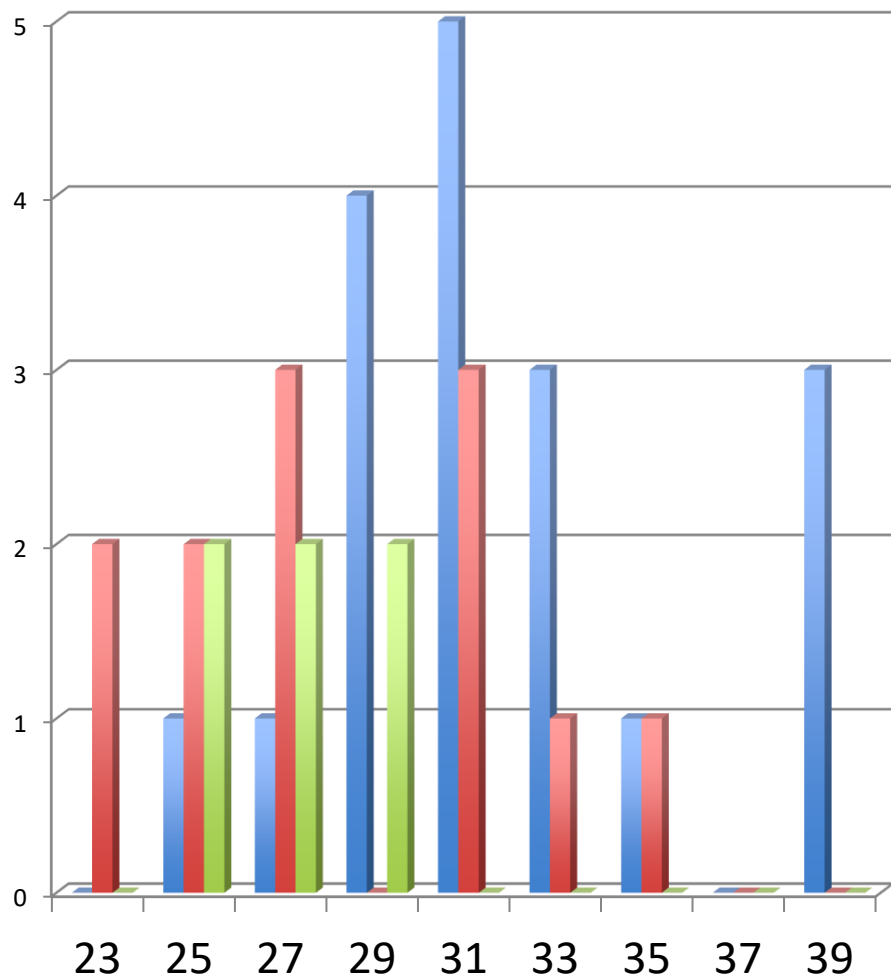


真性瘤	19
慢性解離	12
急性解離	6
合計	37

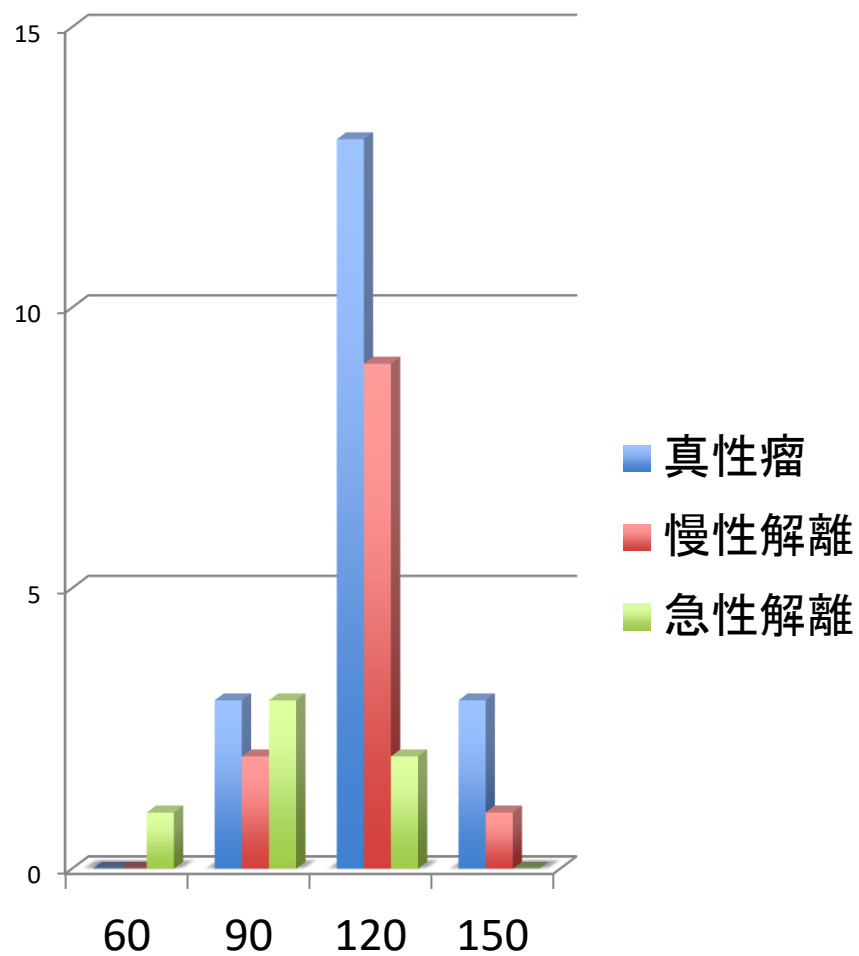
	真性瘤	慢性解離	急性解離
手術(min)	385±53	376±80	434±103
人工心肺 (min)	210±26	205±36	238±73
脳分離 (min)	121±26	106±28	145±54
輸血 (赤血球製剤 unit)	11	15	12

有意差なし

各病態において安定した手術成績



Frozenix size (mm)



Frozenix length (mm)

疾患や大動脈形態に応じて様々なサイズを選択

脊髄虚血 / SINE

	脊髄虚血 (+)	SINE (+)	
合計	5.4% (2/37)	18.9% (7/37)	
真性瘤	5% (1/19)	0%	
慢性解離	8% (1/12)	33% (4/12)	全例 追加手術
急性解離	0%	50% (3/6)	

脊髄虚血は各種報告と同等の発生頻度

大動脈解離においてはデバイスの特性上 SINEは一定頻度で発生する

(そのため病状によっては2期的手術を前提としている場合もある)

結語

Frozenixは周術期のリスクを低減できる有用なデバイスである。

2014年に薬事承認を取得以降、その適応が広がっている。

様々な大動脈形態に対応するため種々のサイズが販売されているが至適サイズについてはいまだ議論の余地があり、脊髄虚血やSINEは一定頻度認められる。

約5年の使用実績においてFrozenixは安定した初期成績を示しており、現在開発中の改良デバイスなどの導入も含めてさらに症例を積み重ねる予定である。